LUZ の熊野古道案内

2006 年　11 月　上

11 月 1 日　～　11 日

je2luz.exblog.jp

目次

２００６年　**11** 月

11 月　１日
11 月　２日　番外　新聞記事で思う　池原ダム
11 月　３日　新・熊野市　旧・紀和町
11 月　４日　連休の松本峠
11 月　５日　連休の南紀
11 月　６日　歯抜けになる街
11 月　７日
11 月　８日　熊野市民憲章
11 月　９日　熊野市のシンボル
11 月１０日　熊野は極楽浄土への入り口
11 月１１日　補陀落よりは・・・
11 月１２日　ネタ拾いに・・・
11 月１３日　観光名所　獅子岩

2006 年　11 月　02 日

熊野の旅　番外　新聞記事で思う　池原ダム

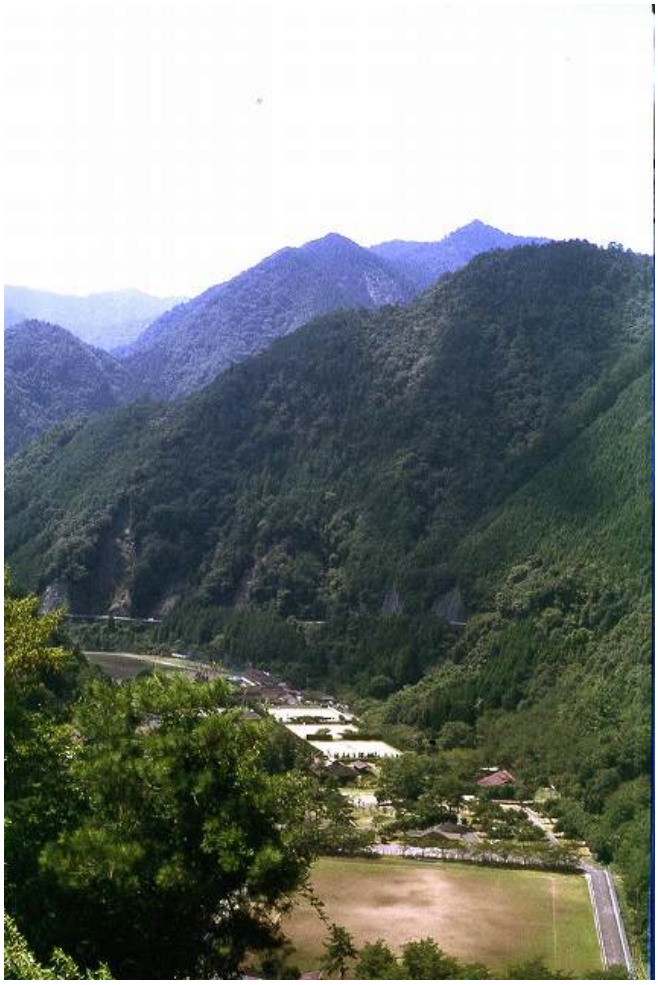
以前にも触れましたが、紀伊山地にはダムがたくさんあります。

戦後の復興期、電力不足を解消し、工業発展のためのエネルギーを確保するために、熊野川総合開発で水力発電所がたくさん作られました。

このダムの中で唯一つ、いつも半分くらいに水位を下げていおるダムがあります。『池原ダム』です。熊野川水系では最大のダムです。

ここで再びこれを取り上げたのは、新聞紙上でも書かれていますように、電力会社によるダムの沈下、変形の測量結果が改ざんされもとのデータも破棄されていたと言うことです。

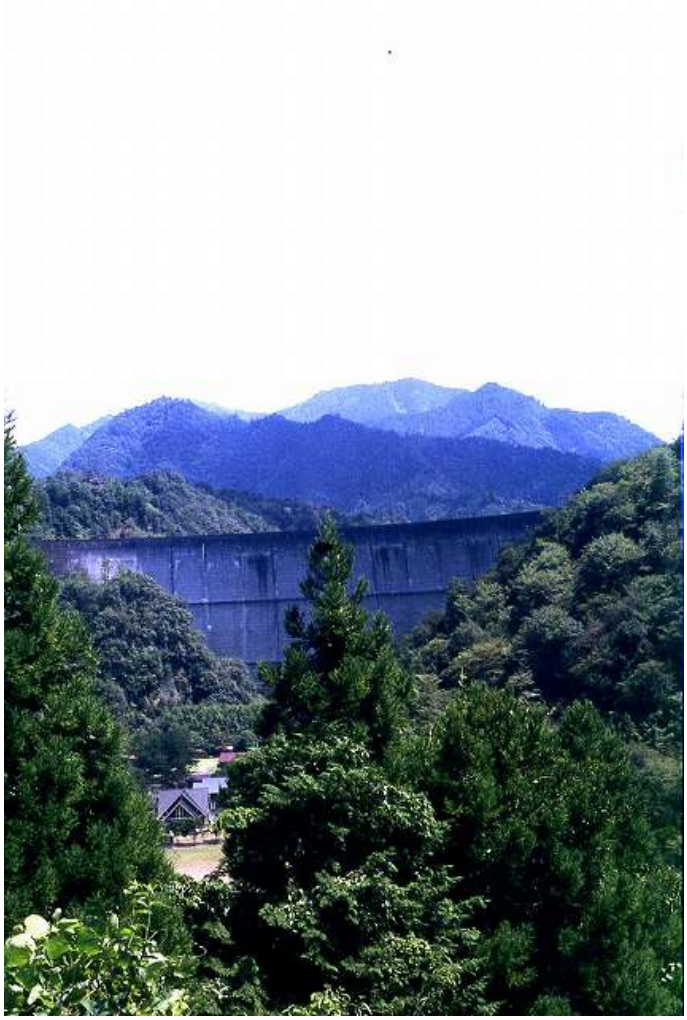
ダムと言うものはその内側に大量の水を蓄えます。万一ダムが決壊すればその下流は大災害になります。



池原ダムの直下には池原の集落とスポーツ公園や宿泊施設まであります。集落の遠い方でも 1Km あるかどうかという距離です。これほど直下に民家のあるダムも珍しいでしょう。ダムの堰堤から見るとはるか下に集落などが見えます。運動公園から見ると目の前に山のような堰堤が見えます。実に怖い光景です。

このダムは集中豪雨のすぐ後以外は満水になっていません。水位が下がるにしても大幅に下げて半分くらいに抑えています。そのため山肌が露出して異様な光景です。このそばの『七色ダム』はいつも満水です。『計画水量が無かった…』と言う問題ではないような不自然な物です。

今回の変形隠しなどそれこそ『想定の範囲』です。
原子力発電所は勿論こうした水力発電所でも『国策』『お国のため』と言う論法でかなり無茶をやるものです。
ダムの計画が持ち上がったとき、『ダムを建設すると流下する土石が減少し、将来七里御浜の減少を引き起こす』というレポートなど握りつぶし、御用学者の『流域の洪水を防止し、エネルギー供給の大役もになえる優れた企画』というレポートを採用したのが、国策電力会社の『電源開発株式会社』です。
その結果が三十年も経たないうちに七里御浜の砂利は大幅に減ってきています。
こうした会社ですから、ダムの変形や強度不足を隠すくらい朝飯前でしょう。体質がそうなのですから・・・
万一、ダムが決壊すればほんの数分で池原は消滅でしょう。運の悪い人はたまたまここを通りかかるでしょうがこれは宝くじに当たるより率は低いでしょう。これから河口の新宮までは全て消滅でしょうね。
新宮までは距離があるので時間はありますが、非常警報を出しても、サイレンの意味など分かるはずも無し、広報車を廻す準備をして回っても一時間やそこらで新宮市民全員が一山越えて三輪崎側に逃げるなんて不可能でしょうね、
こうした以前からの心配事がますます大きくなりました。
下北山村では問題視していないのでしょうか？怖すぎて聞くことも出来ない？
このことが杞憂に終わることを祈ります。



カメラは**コダック・レチナ 1A** Tags:クラシックカメラ　　y **je2luz** | 2006-11-02 11:25

2006 年　11 月　03 日

熊野の旅　新・熊野市　旧・紀和町

今年の春、平成の合併により熊野市と紀和町が合併して熊野市が広くなりました。

人口の減少が続き 1/3 ほど減った熊野市でも一応『市』でした。合併前の紀和町は過疎化と老齢化が熊野市より進んでいて、人口などはピーク時の 1/5 とかになっていましたからその差はものすごく大きなものでした。

地方自治体の一番小さな単位の市町村の議会議員選挙はほとんど単一選挙区・大選挙区で行われます。しかし、平成の大合併では吸収合併のような合併が多かったので小さい所を分離して独立選挙区を設けて選挙を行った所が多く見かけられます。

熊野市・紀和町の合併に伴う市議会議員の選挙は一年任期を短縮して今年の春に行われました。その時に旧紀和町に割り当てられた定員は３名でした。これを割り当てないで選挙すると紀和の方で立候補者を絞り込まないと下手すると議員 0 になる可能性もあるからです。

老齢化が進んでいるので候補者も高齢に人ばかり…当選者も高齢の人と言う結果になりました。そして…一人お亡くなりになりました。

公職選挙法の規定により、欠員が生じても、ある程度の数までは補欠選挙を行わなくて良いのです。その数は 1/5 までとなっています。だから、何処の町でも議員さんが死んだら選挙…なんてことは無いのです。

紀和町のような選挙区を作ると今回のようなケースになると、一人欠員になるとすぐに選挙をすることになります。代表者が大幅に欠けた状態を放置できないからです。

と、言うことで半年ほどで又市議会議員選挙だそうです。定員ｊは欠員になった１名分です。立候補は二人になりそうです。告示までにもう一人死ぬと定員が増えるのでは？？

Tags:熊野市 モノクロ クラシックカメラ　　by **je2luz** | 2006-11-03 11:36

2006 年　11 月　04 日

熊野の旅　連休の松本峠

世は連休だとか。そして各地では秋祭りが盛んに行われるようです。

熊野古道の松本峠と獅子岩、花の岩窟神社を結ぶ中間の我が家の前を見ていると普段はほとんど目にしない古道歩きの観光客の姿がぽつぽつ見えます、それでも行列して歩くようなことはありません。

松本峠の上り口まで行ってみましたが、その近くの知人と立ち話をしたり、写真をとったりして３０分ほど居ましたが、通りかかったのはご婦人二人連れのハイカーだけでした。

上り口に用意された竹や木の枝で作った「杖」がやたらと少ないことです。それがけ沢山の人が登っていったということなのか、地元の人の回収が遅れているのか…

この上り口は近所の方によって花が植えられています。

岩山の急斜面にほんの少し平らなところを作って畑を作っています。こうした小さな畑も今で言う「家庭菜園」のように大切にされ、野菜を自給してきたのだと思います。

国道４２号線の歩道にはベルト状に花壇が作られ定期的に花が植えられます。期日がくれば花の盛りにでも引っこ抜いて次の花の咲きかけた苗を植えます。花壇であっても人間味のないものです。

この松本峠上り口の花などは盛りを過ぎても花が終わるまで残してもらっています。その、少しわびしい光景も私などには「花畑らしく」感じられます。

カメラはコンタフレックス　コンタフレックス４型

上二枚が標準・テッサー５０mm f 2.8　　下が望遠・プロテッサー115mm f 4.0

Tags:熊野市 熊野古道 クラシックカメラ　　by **je2luz** | 2006-11-04 11:10

2006 年　11 月　05 日

熊野の旅　連休の南紀

私は昔から連休と言うときは出かけないことにしていました。

普段、１時間で行けるところに２時間もかけるなんて嫌だったからです。

まあ、こんなことを言ってられたのは自家営業の製材所と林業だったからです。

今も、連休には出かけません。今出かけないのは一緒に出かける家族も居なくなったのと、林業不振で懐が寂しいからです。

かつて、国内旅行が盛んだった頃には、町内会、会社、農協、はては政治家の講演会まで団体を仕立て貸切バスを連ねてこんな不便な南紀まで大挙して押しかけてきたものです。

南紀もずいぶん道路が良くなり、列車も時間が短縮され近くなったのですが、お客さんの足はどんどん遠くなってしまいました。

今では、一号車・二号車・三号車・・・・・・十二号車なんて貸切バスの列など見かけることがなくなりました。単独走行の観光バスさえめったにお目にかかりません。世界遺産に指定されても特に変わったようには思えません。

テレビでももはや放送することも無く、新聞のローカル版にも交通事故は載っても

世界遺産・熊野古道など載ることもなくなったほどですからね。
　ただ、めったにこない団体さんでも昔なら那智山にお参りして勝浦に泊まるのが目的だったのが速玉神社と本宮大社もコースに入れるようになったことです。
　かつては速玉神社など一般の人は知るはずもなし、国道４２号線のそばにありながらとめて参拝するバスはまれでした。まして、ルートから外れた本宮大社などマニアックなツアー以外は行くはずは無かったのです。

　この連休も観光バスはほとんど見かけません。観光のベストシーズンなのですがね・・・
　写真は熊野古道が世界遺産指定以来、目に見えて参拝者の増えた本宮大社です。
Tags:国道４２号線 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2006-11-05 12:14 |

2006 年　11 月　06 日

熊野の旅　歯抜けになる街

　熊野古道歩きに来られた方で本町通をとおられた方は結構明るい町並みだと思ったことかと思います。
　私が載せる写真はどちらかと言うと暗めのものが多いのですが今の町並みは確かに明るくなってきています。
　理由は古い町屋が取り壊されて空き地になってきたからです。この一年ほどの間に私がここに載せた洋館の元歯医者さんの建物も先日取り壊されました。そして、今日

載せる古来の木本町の町並みを作ってきた格子入りのこの建物もそう遠くない時期に取り壊されると思います。

　こうして町が変わってゆくのが当たり前のことなのですが、田舎町と都市部の違いは建物が取り壊されるところまでは同じですが、その土地に新しい建物が建つのが都市部で、跡地がずっとそのまま残されることの多いのが田舎です。後継ぎなどいないのですから建物が傷んで取り壊したらおしまいなのです。

　木本の本町通は古い町並みで京都のように間口が狭く奥行きの深い敷地ですから、たとえその土地を買ってもそのままでは普通の家は建ちません。二軒分合わせれば何とか四方に窓を開けることも可能かとは思いますが・・・

　少し前は『後家通り』と陰口をたたく人も居ましたが、その後家さんも居なくなってきています。あと、十年経ったらどうなるのでしょうね。平均年齢は６０歳を超えていますがね。

　そんな道を石畳にする公共事業の準備が着々と進んでいます。石の継ぎ目で住民が転ばなければ良いですがね…敷石より墓石のほうが喜ばれるような気もします。

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2006-11-06 12:49

2006年　11月　08日

熊野の旅　熊野市民憲章

　熊野市が紀和町と合併して１１月１日で一年になります。そこで、『熊野市民憲章』が制定されるようです。旧熊野市にもあったような気がしますが、これ式のは、昔流行って全国ほとんどの町にあるように思います。埃をかぶって忘れられているものがほとんどでしょうけどね。

　役場に行くとどこかに掲げてあったりします。そして、どこの町でもほぼ同じ、金太郎飴…

　皆さんの町のものだと思って読んで下さい。

　☆自然環境を守り、清潔で美しいまちをつくります。
　☆歴史を大切に、文化のかおり高いまちをつくります。
　☆支え助け合い、健康で明るいまちをつくります。
　☆働くことに喜びをもち、産業が発展するまちをつくります。
　☆思いやりを持ち、心豊かなまちをつくります、

　・・・・・・と言うものです。

　悪いとは言いません。少し、しらけた気分になるだけです。特に第四項目については…

　そう、第一項にある環境を守るのは市民だけでは出来ません。熊野古道歩きにお見えになるちょっとした心遣いで熊野の自然が守られます。ご協力をお願いいたします。『ぽい捨て禁止条例』とかもあるようですから・・・

Tags:熊野市 熊野古道 モノクロ　　by **je2luz** | 2006-11-08 11:43

2006年　11月　09日

熊野の旅　熊野市のシンボル

いつの時代からでしょうかね。

全国に自治体にシンボルが決められたのは・・・

市章などではありません。『市の花』『市の木』『市の鳥』というものです。

東京の木は『銀杏』だしたっけ？

自分が住んでいる町のシンボルを全部言える人はいったいどれくらいいるのでしょうか？私は『木』と『花』は分かりましたが『鳥』が分かりませんでした。

熊野市報によると

市の花　**ささゆり**

市内一円に自生し山間部では群生地も見られます。

その花の芳醇な香りと清楚で可憐な姿は、美しく雄大な熊野市の自然を象徴するようです。

市の木　**杉**

熊野市の気候や地質が杉の生育に適していることから植林の歴史も長く、身近な木として人々に親しまれてきました。

まっすぐに伸びた杉の姿と力強さには熊野市の未来と繁栄が感じられます。

市の鳥　**うぐいす**

春には、市内各地において身近に泣き声を聴くことが出来ます。

暖かく輝く春を告げる鳥とした、愛らしい姿と泣き声は、熊野市の反映と市民の幸せの訪れを感じさせます。

だ、そうです、

花と木の選定には問題はなさそうです。鳥はどうなのかなあ？？？イメージは良いですが実際のこれを聞く市民はどれほどいるのでしょう。まして、姿を見たことのある市民となると…

影の市役所があるとすれば…

市の花　ささゆり

山の中にひっそり咲くのがお似合いの花。熊野市も将来は此花のようになるでしょう。

そうなっても、清らかで凛とした風情はなくしたくないものです。

市の木　杉

かつては繁栄をもたらした杉の木も今では花粉症の犯人として悪者扱いされています。

杉の花粉のように全国に散っていった熊野の子供たちがパッシングにくじけずに頑張って欲しいと思います。

市の鳥　トンビ

市内各地に生息し、空を見上げればそこに舞っている鳥です。

世の流れがどうあろうと気高い姿は変わりません。

熊野市民も誇りをなくさないで大空に高く羽ばたこうと言うにふさわしい鳥

です。

まあ、こんなところでしょうか・・・

これから春まで市内各地のトンビが海岸に集結します。
昼間は浜や堤防で羽根を休めています。集団でそれを舞う姿は勇壮なものです。
非常に利口な鳥です。カラスよりけんかは強いはずですが、カラスのような悪さはしません。

Tags:熊野市 熊野古道　　松本峠　　by **je2luz** | 2006-11-09 13:22 |

2006 年　11 月　10 日

熊野の旅　熊野は極楽浄土への入り口

熊野は神々の里でもあり片や仏の国への入り口です。
神仏混合…まさに熊野信仰はごちゃ混ぜの様相を示していますね。明治維新以降の分離政策が無ければ今でもごちゃ混ぜなのでしょうね。
熊野三山巡りは神社めぐりのようでありながら、願ったのは死後の安泰？？？神道とは少々ずれがある…
ヒンズー教は土着の神々をどんどん取り込んで広がっていったそうですが、日本も元々多神教ですから、6 世紀に入ってきた仏教と土着信仰さらに神道とごちゃ混ぜに

しちゃうくらいお手の物だったのでしょうね。
　その仏教系の究極のご利益信心が『補陀落信仰』でしょう。ここの海から沖に出れば補陀落…極楽浄土に行けると言うものです。メッカになったのは那智の浜ですが、ここ熊野市の沖でもさほどのずれは無いでしょう。
　世俗の人間には『補陀落渡海』などという小船に乗って補陀落を目指すと言うような荒業は出来ませんが、極楽への入り口に近いところで死ねば極楽往生できる可能性は高いでしょうね。

　写真は那智駅近くの『補陀落山寺』で、ここの住職が歴代『補陀落渡海』をしていたのです。

　熊野市の９月１１日から１０月１０日までの人口動向・・・
　　誕生した数＝　8 人
　　亡くなった数＝　23 人
　ありがたいことに 100%が老齢者でした。
　三月には木本高校を卒業する生徒の数ほどの転出があります。

by **je2luz** | 2006-11-10 13:03

2006 年　11 月　11 日

熊野の旅　補陀落よりは・・・

　昨日は熊野信仰のひとつ『補陀落信仰』に触れましたが、熊野信仰が盛んだったのは室町時代までだったようです。京都に都がある頃には熊野は適当に離れた辺地であり、適当に苦労してお参りできる地でもあったわけです。１３回とかお参りした上皇さんもいたようですからね。
　戦国、戦乱の世には、のんびり熊野詣など出来る雰囲気でもなかったでしょう。そ

して、世が落ち着いて物見遊山気分で神社仏閣にお参りするようになったときには、都は京都とはいえ、日本の中心が江戸に写っていました。

江戸からは熊野は今でもものすごく遠いのですが、昔はまさに地の果てでした。

そこで『熊野詣』に代わって登場して k たのが『伊勢参り』です。伊勢講などやって交代にお参りに来たのは『東海道中膝栗毛』でもおなじみですね。

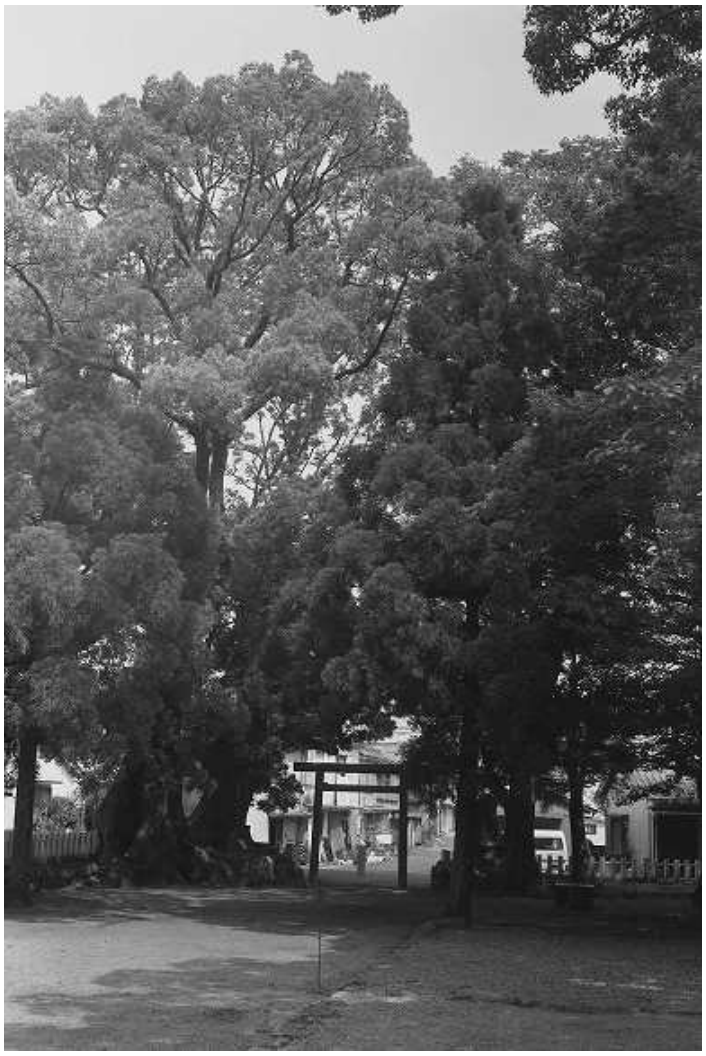
そのついでに『熊野詣』をしてくれたら、熊野。伊勢街道も賑やかになり、ここ木本なども宿場町になれたでしょうね。ところがどっこい、伊勢に参った人が南下して熊野にくる率はそんなに高くなかったようです。

もうお参りを済ませているのですから、伊勢の『古市』の遊郭で厄落しをして…金に余裕のある人は鈴鹿越えで花の京都見物に、金の無い人は江戸へまっすぐ帰ったようです。

井原西鶴の『好色一代男』の主人公の世之介は色の道を歩むうち、『紀州加陀』とやらまで流れてきたようです。この世之介の最後は『よしいろ丸』に乗って『女護ヶ島』目指して船出していったそうです。船出したのは神無月の末だそうです。丁度今ごろでしょうね。伊豆の国からだそうです。

熊野の海に出たのでは『色』とは関係の無い『補陀落浄土』に言っちゃうので世之介には具合が悪いでしょう。

信心心の無い私なら、『渡海舟に乗って補陀落を目指す』より『女護ヶ島』を目指すほうが、無事にたどり着けるなら楽しいかも・・・



Tags:熊野古道 モノクロ クラシックカメラ　　**je2luz** | 2006-11-11 13:22

2006 年　11 月　12 日

熊野の旅　ネタ拾いに・・・

　本日は・・・天気晴朗なれど波高し・・・のようです。

熊野地にも冬が近づいたらしく風が吹いています。

季節風が吹くとは言え、シベリア、満州からは遠く、紀伊連山が風をさえぎるので大したことは無いのですが、やはり海には白波が立ちます。

ここの空っ風は山から海に吹きます。この季節は塩気があがってくることの少ない時期です。

今日は今からネタ広いに出ます。

ネタ切れもありますし、新しくレンズが一本到着したのでそのテストを兼ねて出ます。今回の派クラシックカメラとは言いがたいものですが、ちょいと珍しいレンズですので試してみます。

シュナイダー・クロイツナッハ・Cークルタゴン・３５mm2.8 と言うものです。一応、名玉だそうです。

ネタが拾えたら明日か明後日くらいに模せられると思います。

Tags:熊野市 熊野古道　　大泊海岸　　by **je2luz** | 2006-11-12 12:14

2006 年　11 月　13 日

熊野の旅　観光名所　獅子岩

観光名所というものには看板がつき物です。

近づいてくるとぽつぽつと案内板などが立ち観光地らしくなってきます。そして、見晴らしの良いスポットにくると、その説明板が立っています。

熊野市の観光名所の『獅子岩』と言うのは岩が獅子のように見えるのですが、見える角度が限定され、丁度その位置が旧国道のカーブ部分の残ったところを利用した展望台になっています。

国道から信号で離れるだけの至近距離ですから、すごく便利な展望台です。

ここ一箇所だけが見物場所になるためかこのように沢山の看板が賑やかに立ち並んでお迎えしてくれます。
ありがたいことにこの獅子岩は特別天然記念物なので本体には看板など取り付けられていません。それに、獅子岩を見るのにはこれらの看板群は一向に邪魔にはなりません。
左の一枚などは記念写真をとるときにわざわざ入れる人も多いくらいのものです。

この展望台から眺めた獅子岩は誰がとっても間違いなく獅子岩になる眺めです。
これは３５mm と言う少しワイドですが、標準レンズできちんと納まる優等生の名勝です。おまけに、すぐに降りられる七里御浜もわざわざ降りるまでも無く『獅子岩』が見えているので降りてゆく人もほとんど無いので人影の無いときが多いので邪魔な人間抜きの写真が撮れます。
もうひとつの観光スポットの鬼ヶ城のほうでは少し人影が邪魔になるときはありますが、そちらでも「人抜き写真」が簡単に撮れる程度ですね。

国道４２号線を新宮方面から名古屋方向に走っていると、獅子岩はこのように見えています。昼間走れば見落とすことも無いでしょう。
この獅子岩に横には喫茶店があり夕方までは営業しています。夕方からはいわく因縁があり昔から営業していません。

使ったカメラはフジカＳＴ６０５Ｎ・・・レンズはシュナイダー・クロイツナッハのＣ-クルタゴン３５ｍｍｆ2.8 です。
Tags:熊野市 国道４２号線 モノクロ by **je2luz** | 2006-11-13 11:49